

和歌山市男女共生推進センター

みらい

第59号

2025. 秋号



(写真提供：Nさん)

特集

◆自分の好きを
堂々と言える社会へ

◆名もなき家事って何だろう？

◆令和7年度 男女共同参画週間

◆みらい図書室／みらい相談室だより

◆男女共生推進センター “みらい”

自分の好きを 堂々と言える社会へ

～ ある中学生の願い ～

“「男らしさ」「女らしさ」よりも「自分らしさ」” “性別によるステレオタイプの押しつけはよくない” など、ジェンダーにとらわれない考え方は昔に比べると広く浸透してきたように思われます。

しかし、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見や思い込み）はまだまだ根深く私たちの中にあるのではないのでしょうか。和歌山市の中学校に通う生徒の作文を通じて、今一度「みんなが自分らしく生きていける社会」について考えてみませんか。

「男の子みたいだね。」

私が小学生の時、周りからよく言われていた言葉。この言葉を聞くたび、胸が締め付けられるような感覚に襲われました。

私は小学六年生の時に髪の毛を短く切りました。スカートよりもズボンが好きだったため、学校に行く時も、出かける時も、ズボンばかりはいていました。

髪の毛を短く切ってから、よく周りにこう言われるようになりました。

「男の子みたいだね。」

私は、なぜ髪が短くズボンをはいているだけで男の子みたいと思われるのか、疑問に思いました。周りのみんなと同じように、私は私の好きな恰好をしているだけです。ただそれだけなのに、周りからは「男の子みたい」や「男の子になりたかったの」と言われました。私はそう言われることがとてもつらいと感じていました。

「男の子みたい」と言われるようになってから、私はスカートをはいたり、髪をのばしたりしました。すると周りからは「前より今のほうが可愛い」や「女の子っぽくていいね」と言われるようになりました。私は周りから「普通になったね」と言われた気がして少し安心しました。同時に、自分を偽りながら周りに合わせることをとても苦しく感じるようになりました。

みなさんは、女性が髪を短くしてズボンをはくことはおかしいと感じますか。男性が髪をのばしてスカートをはくことはおかしいと感じますか。「多様性だから」「今の時代はいろんな人がいる」このように考えている人もいます。けれど、もし自分の身近な人がそのような恰好をしていたらどう感じますか。「身近にいないから深く考えず社会に合わせる」ではなく、「今、目の前にいる人がそうだったらどう感じるか」を一度考えてみてほしいのです。

私は身近にいる人に自分のことを一番理解して、認めてほしいと思っています。だからこそ、友達や家族に理解してもらえず、悲しいと感じていました。でもやはり、自分を偽って周りに合わせることは苦しいことです。

中学校の入学式の時、私は母に「入学式はやっぱりスカートが可愛いよ」と言われました。私はズボンをはきたい自分の心をおさえて、スカートをはいて入学式に行きました。けれど、中学生になっても好きな服を着られないことへの悲しみがどんどん募ってきて、ついに周りの目を気にしながらもズボンをはいて学校に登校しました。するとある友達からこう言われたのです。

「ズボン似合うね。かっこいいと思うよ。」

この言葉に私はとても救われました。「男の子みたい」や「多様性の時代だからそういう人もいるよね」などといった言葉ではなく、ただ「かっこいいよ」とありのままの私を認めてくれる一言。自分の「好き」を好きでいさせてくれたこの言葉が、とても嬉しかったです。

誰にでも、好きなものを好きでいられる権利があります。「こんな人が好き」「こんな服が好き」ただそれだけでいいのです。

私は、相手の「好き」も、自分の「好き」も、尊重できるような社会になってほしいと心から願っています。誰もが、自分の「好き」を堂々と言えるような社会になってほしいと。



名もなき家事って 何だろう？

「家事」というと「料理」「掃除」「洗濯」などが思い浮かぶのではないのでしょうか。

しかし、日々の暮らしの中には、名前がつかないような小さな作業がたくさんあります。

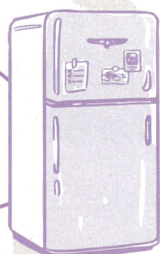
たとえば、「トイレトーパーの補充や交換」「ごみの分別」「洗剤やシャンプーの詰め替え」「日用品在庫チェック」「学校のプリントチェック」など、こうした“名もなき家事”は、ちょっとしたことでも積み重ねれば大変な作業になり、負担が偏ってしまうこともあります。

まずは、その存在に気づくことから。そして、家族で話し合い分け合うことから始めてみませんか。

あれ？
トイレトーパー
切れてる…



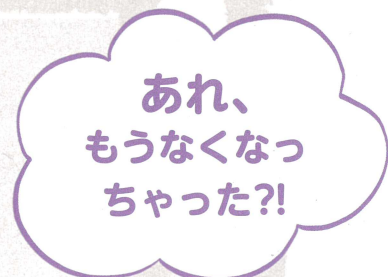
もう、
牛乳ないよ～



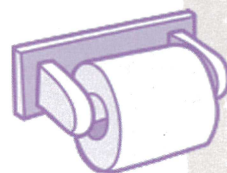
ごめん、
替えてなかった!!



あれ、
もうなくなっ
ちゃった?!



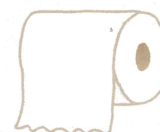
だれが
やるの～



買いに行かなくっちゃ!!

やってみよう! わが家の“名もなき家事チェック”

☐ トイレトーパー
の補充・交換



☐ エアコンのフィルター掃除

☐ お風呂や洗面台の排水溝の掃除

☐ リモコンの電池交換

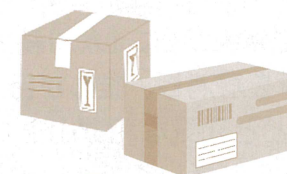
☐ 洗剤やシャンプーの補充

☐ カーテンの開け閉め

☐ タオルの交換



☐ 宅配便の
受取り



☐ 洗濯物をたたんで片付け

☐ 郵便物のチェック

☐ 食事の献立を考える

☐ 学校のプリントを確認

☐ 冷蔵庫の中の整理

☐ 家族の予定をまとめる

☐ ペットボトルや空き缶の片づけ

☐ 家族の健康管理



☐ ゴミ出しの準備



☐ 花や観葉植物の世話

☐ 段ボールをつぶして捨てる

☐ ペットの世話



小さな気づきが

家族の『ありがとう』につながります。

無理をせず、できることから
少しずつ助け合っていきましょう。



男女共同参画週間 公開セミナー

人口減少時代の地方創生

～女性活躍の視点から～

講師：片山 善博 さん
(大正大学公共政策学科教授、元鳥取県知事)

毎年、男女共同参画週間にちなんで和歌山県と共催で開催している男女共同参画公開セミナー。今年度は、令和7年6月14日に元鳥取県知事の片山善博さんを講師にお招きしました。知事時代に女性の積極的登用を進め、現在は地域創生施策を専門にされているご経験から、「人口減少時代の地方創生には、ジェンダーギャップを解消し、誰もが自分らしく働ける環境づくりが必要です。」などと元気な和歌山をつくる地方創生のヒントを女性活躍の視点からお話しくださいました。

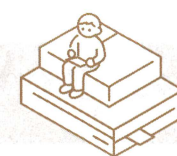


「地方創生の目指すことと、女性・若者に選ばれる地域を目指すことのつながりがよく分かった。」「男女共同参画にふさわしい内容でした。」「男女関係なく一人ひとりが意欲と能力を発揮できる社会の必要性がよくわかった。」などの感想をいただき、男女共同参画社会について改めて考えることができた有意義な時間となりました。

男女共同参画週間にパネル展開催

和歌山市では『誰でも、どこでも、自分らしく』をキャッチフレーズとする男女共同参画週間の6月23日から29日まで、市役所本庁舎1階正面玄関ロビーと男女共生推進センター（あいあいセンター5階）で啓発パネルを展示しました。

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには政府や地方公共団体だけでなく、皆さん一人ひとりの取組が必要です。



みらい図書室

「みらい図書室（情報ライブラリー）」では、男女共同参画に関する行政資料の閲覧や、図書の貸出を行っています。また、絵本や児童書、雑誌のバックナンバー（過去1年分）も取り揃えております。

新しい本が加わりました

【貸出期間：2週間／一人3冊まで】

**ダイバーシティ
女性活躍はなぜ進まない？**
著：羽生 祥子（日経BP）

日本社会に根深く残る“性別ガチャ”の構造を解き明かし、女性活躍が進まない理由をデータと実例で鋭く分析。「現場あるあるの10の質問」への回答や、先進企業の実践ノウハウも満載。性別や世代を超えて、誰もが納得できるダイバーシティの本質に迫る一冊です。経営層だけでなく、子育てとキャリアを両立したい女性の方にも読んでほしい内容です。

**仕事は辞めたくない！
働く×介護 両立の教科書**
著：木場 猛、
佐々木 裕子（日経BP）

介護は突然始まります。いざという時に困らないために、本書は仕事と介護の両立の知識と備えをやさしく解説。地域包括支援センターの活用、介護休暇制度の使い方、介護施設の選び方、健康寿命を延ばす工夫など、今から知っておきたい情報が詰まっています。「介護はまだ先」と思う人にもぜひ読んでほしい一冊です。

**せかいでさいしょに
ズボンをはいた女の子**
著：キース・ネグレー
訳：石井 睦美（光村教育図書）

19世紀のアメリカでは、女の子はスカートを履くのが常識でした。そんな常識に疑問を抱いたメアリーは思い切ってズボンを履いてみます。すると町は大騒ぎに!!それでもメアリーは自分を信じて前に進みます。さて、その先に待っていたものは…。かわいい挿絵が多く、未就学児や小学生にもおすすめの一冊です。



「令和7年度 雑誌のリサイクル」を開催しました

みらい図書室で貸し出している雑誌のバックナンバーを、無料でお譲りするイベントを行いました。2023年4月から2024年3月までの雑誌、およそ120冊がリサイクルの対象となりましたが、好評につき、全ての雑誌をお持ち帰りいただけました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

「みらい相談室」にお電話ください

辛い思いを聞いてくれる人はいますか。
家族や友達、あなたの気持ちを受け止めてくれる人はいますか。
辛い思いを抱え込まないで、少し誰かに話せたら、
抱え込んでいた辛さが、軽くなるかもしれません。
一歩を踏み出すお手伝いができればと思います。
1人で悩まないで、電話で話してみませんか。



男女共生推進センター みらい相談室

相談専用電話 073-431-5528

相談時間 10:00～12:00

13:00～16:00（休館日・祝日・休日を除く）

*女性相談員による相談電話です。*ナンバーディスプレイは使用していません。

男女共生推進センター“みらい”



5階

研修室 (定員54人)

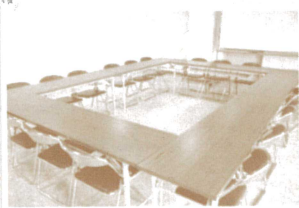


【利用料金】

午前 (9時～12時)	4,190円
午後 (13時～17時)	5,550円
夜間 (18時～21時)	4,190円

- ・各種会議や研修会、合唱の練習等でお使いいただけます。
- ・電子ピアノ (1回 520円)、スクリーン (無料 ※プロジェクターはご持参ください) 利用できます。

第1会議室 (定員18人)



【利用料金】

午前 (9時～12時)	1,460円
午後 (13時～17時)	1,880円
夜間 (18時～21時)	1,460円

6階

(客席・舞台あり)

ホール (定員153人 194.36㎡)



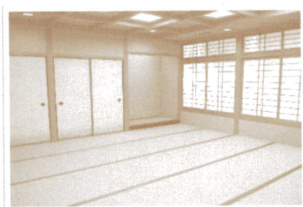
フラット

【利用料金】

	ホール	控室
午前 (9時～12時)	6,070円	520円
午後 (13時～17時)	8,060円	620円
夜間 (18時～21時)	6,070円	520円

- ・ピアノや合唱の発表会、練習、ダンスや体操等でお使いいただけます。
- ・ホールご利用の場合に限り、7階の控室のご利用が可能です。
- ・グランドピアノ (1回 3,140円)、スクリーン (無料 ※プロジェクターはご持参ください) 利用できます。

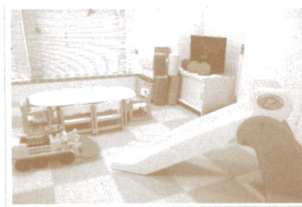
和室 (18畳)



【利用料金】

午前 (9時～12時)	2,400円
午後 (13時～17時)	3,140円
夜間 (18時～21時)	2,400円

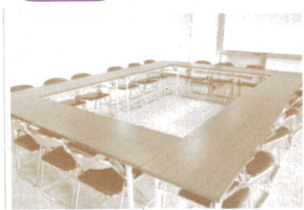
子供室



当課主催の講座開催時等における一時保育の場です。また、貸館利用される方のお子さんは、保護者の方と一緒に遊ぶお部屋となっています。
※子供室だけのご利用はできません。

7階

第2会議室 (定員18人)



【利用料金】

午前 (9時～12時)	1,460円
午後 (13時～17時)	1,880円
夜間 (18時～21時)	1,460円

男女共生推進センター“みらい”では、各種施設を貸出しています。詳しくはお問い合わせください。

和歌山市男女共生推進センター“みらい”

所在地 〒640-8226 和歌山市小人町29番地
(あいあいセンター5～7階)

TEL (073) 436-8704

FAX (073) 432-4704

Eメール danjokyousei@city.wakayama.lg.jp

開館時間 8:30～21:00

(貸館受付及び図書室利用時間は9:00～17:00)

休館日 月曜日、年末年始(月曜日が祝日・休日と重なる時は、その次の平日)

交通 JR和歌山駅からバス停「市役所前」下車、徒歩5分

南海和歌山市駅から徒歩10分

※地下駐車場は、駐車台数に限りがありますので、できる限り公共交通機関をご利用ください

